

研究協力をお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

デスフルラン単独維持と閉創期レミマゾラム置換が抜管時咳嗽スコアおよび循環動態に及ぼす影響：後ろ向き観察研究

1. 研究の対象および研究対象期間

2026 年 1 月 1 日から 2026 年 6 月 30 日に昭和医科大学横浜市北部病院の消化器外科、もしくは呼吸器外科で手術を行なった患者さんを対象とします。

手術施行時に 20 歳未満の方、80 歳以上の方、硬膜外麻酔を施行しなかった方は研究対象となりません。

2. 研究目的・方法

【目的】

全身麻酔から覚醒し気管チューブを抜去する際には、咳嗽などの気道反射が生じることがあります。強い咳嗽は患者さんの不快感だけでなく、心拍数や血圧の上昇などの循環動態変動を伴うことがあります。

昭和医科大学横浜市北部病院では、全身麻酔の際に鎮静薬としてデスフルラン（吸入麻酔薬）を使用する症例が多くありますが、症例によっては手術の終盤からレミマゾラム（静脈麻酔薬）に置換して覚醒・抜管管理を行うことがあります。本研究では、デスフルラン単独維持症例と、終盤にレミマゾラムに置換した症例を比較し、抜管時の咳嗽スコアおよび心拍数・血圧などの循環動態に違いがあるかを明らかにすることを目的とします。

本研究により、より穏やかで安全な覚醒・抜管方法を検討するための基礎資料を得ることを目指します。

【方法】

本研究は、通常診療で得られた診療録および麻酔記録を用いた後ろ向き観察研究です。研究のために新たな治療や検査を追加で行うことはありません。

対象は、昭和医科大学横浜市北部病院で全身麻酔下に気管挿管管理を受け、手術室で抜管された成人患者さんです。診療録および麻酔記録から、患者背景（年齢、性別、身長、体重、BMI、ASA-PS、既往歴）、手術内容、麻酔方法、デスフルランやレミマゾラム、フルマゼニルの使用状況、抜管時の咳嗽スコア、抜管前後の心拍数・血圧などを収集します。

収集したデータを用いて、デスフルラン単独維持群とレミマゾラム置換群の2群に分け、抜管時咳嗽スコア、心拍数上昇率、血圧上昇率、抜管までの時間などを比較します。

研究に用いる情報は個人が特定されないよう研究IDを付して管理し、氏名や患者IDなどの個人を特定できる情報は解析データには含めません。

3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2028年3月31日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究では試料は用いません。通常診療で得られた診療録および麻酔記録から患者背景、手術内容、麻酔方法、麻酔薬使用状況、抜管時咳嗽スコア、抜管前後のバイタルサイン情報、抜管までの時間、追加薬剤の有無、有害事象の有無を収集します。収集した情報は研究用IDを用いて符号化し、解析用データには氏名や患者IDなど個人を直接特定できる情報を含めません。

5. 外部への試料・情報の提供

該当致しません。

6. 研究組織

研究責任者	昭和医科大学横浜市北部病院	麻酔科	荘田	博朗
研究分担者	昭和医科大学横浜市北部病院	麻酔科	梅谷	侑未
	昭和医科大学横浜市北部病院	麻酔科	釋尾	知春
	昭和医科大学横浜市北部病院	麻酔科	民本	大
	昭和医科大学横浜市北部病院	麻酔科	信太	賢治

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学横浜市北部病院 麻酔科	氏名：梅谷 侑未
住所：神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1	電話番号：045-949-7332